



継続的・連続的な研究へ向けて

全日本音楽教育研究会小学校部会

部会長 宮田俊明

令和最初の全国大会、令和元年度 全日本音楽教育研究会全国大会 東京大会（総合大会）が、『つなげよう 深めよう 生かそう ♪未来を拓く音楽の学び♪』を大会主題に、小学校部会はこの主題を受け、『つなげよう 深めよう 生かそう 音楽の学びを』を主題として行われました。全国からたいへん多くの先生方にご参加いただき、次年度から完全実施される新学習指導要領における音楽科の授業の在り方への関心の高さを感じさせるものでした。

今回の東京大会は東京都小学校音楽教育研究会の各種研究会での日常の研究活動を活かし、授業研究や研究演奏を実施しました。各種研究会は東京都小学校音楽教育研究会の会員による自主的なグループ研究が継続・発展してきたもので、毎月の定例研究会を中心に各研究会の特色を生かした理論的・実践的な研究を行っているものです。現在では、指揮法、編曲、合唱、管楽器、即興表現、音楽授業、合奏、鑑賞指導、邦楽教育、電子楽器の研究会が、活発に活動しています。これらの日頃の研究活動の成果が今回の全国大会では大いに発揮され、すばらしい全国大会となり、大変ありがたく、また大会実施にむけてのご苦労には敬意を表したいと思います。

ブロック大会としては、北海道 旭川上川大会、東北 福島大会、関東 神奈川大会、東海北陸 愛知大会、中国・四国 徳島大会、九州 長崎大会とそれぞれこれまでの研究の積み上げによる質の高い研究授業や研究演奏が行われていました。来年度から始まる輪番制への期待が大いに高まる大会となっていました。

来年度の輪番制の開始と共に全国大会が都道府県の枠を超えて、音楽教育・音楽科教育が果たす役割を確認し合い、教育内容の充実を図るため「研究の視点」の継続的な設定も行われます。これは、大会開催の成果と課題を時期大会が引継ぎ、全国大会の研究実践に「継続性・連続性」を位置付けることで、大会結果のみならず、開催に向けた研究実践の過程においても開催地だけでなく、全国で成果が得られる研究大会としていくためのものです。

4月から完全実施される新学習指導要領にうたわれている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、全国各地の先生方が全国大会、各地方区での研究大会で学び合い、高め合い、明日を担う子供たちの大きな成長につながるよう音楽教育の発展を願っています。

令和2年3月